



映画会

5月27日に本年度
第1回目の映画会が開
催されました。
当日は地域の方々約
40名の参加を得て、
四万十市を舞台にした

「遅咲きのひまわり」を上映 内容・おもてなしとも最高でした

青春群像ドラマ「遅咲きのひまわり」を上映しました。

映画が始まり映像の中に見覚えのある場所が映し出され、土佐弁(幡多弁)交じりの会話が始まると会場が大盛り上がり、感動あり、笑いあり、ため息ありの1時間40分となりました。

また、映画を見ながらのお菓子含みのコーヒータイムに、地域の方との交流が図れたことと思っています。

映画の終了時には、「続きが見たい!」との声も聞かれ、今年度公民館行事として計画はしていませんが、何らかの形で開催できればと考えています。

今後、皆さんの声を聴きながら岩村公民館の運営を行っていかうと思っておりますので、皆さんのご協力・ご参加をお願いいたします。
(寄稿者・田所秀二「運営審議会会長」)

岩村社協も 総会を開催 豊かな福祉の地域をめざして



4月14日(金)、29年度第1回の岩村地区社会福祉協議会が開催されました。

この中で、28年度事業報告、決算報告がされ、29年度事業計画、予算案が承認されました。

新役員の皆さん

- 会長・石丸 雄三 (堀の内)
- 副会長・五百蔵利隆 (金地)
- 会計・石川 純子 (包末)
- 監事・山崎 由紀(蔵福寺島)
- 監事・岡崎 純男 (福船)
- 委員・中倉 康雄 (包末)
- 委員・安松 美貴 (包末)
- 委員・安松 千枝 (包末)
- 委員・北岡 淳 (堀の内)
- 委員・今井 洋一 (堀の内)
- 委員・岡崎 桃子 (堀の内)
- 委員・岡崎 佳代 (堀の内)
- 委員・大町 秀子 (堀の内)
- 委員・中尾 香代 (金地)

日赤分区分団長に 大畠達郎さん就任

この日、同時に29年度「日本赤十字社岩村分区分団」事業計画、収支計画が発表され、日赤岩村分区分団長に大畠達郎さん(蔵福寺島)が就任紹介されました。

岩村の歴史 ヒストリア

第7回

江戸時代まで物部川は鏡川だった

今では当たり前のように、物部川と言っているが、江戸時代の元禄13年(1700年)土佐藩5代藩主・山内豊房が高知市を流れる川を「鏡川」と名付けたのに伴い、南国市の鏡川は物部川と改められたのです。

奈良時代にはこの地は「香美」と言われており、平安時代の倭名



片地の鏡岩付近

夢の温泉下流、約100m付近にある「鏡岩」。かつて地元の子供たちが大勢、水遊びをしていた。地主の松岡さんの許可を得て、山の斜面の竹と葛のやぶを下ること100m、川面付近で撮影。50年前に作られた山田合同堰で歴史遺産のほとんどが水没していた。

類聚妙に「香美」と書いてふり仮名をわざわざ「加々美」と書いてあります。元々の鏡川の語源はこの香美(かがみ)がなまったものか、片地にある鏡岩(片地村史には鏡岩が鏡川のこの起り」と書かれていた)が語源かは、さだかではありません。

ではなぜ、物部川といわれるようになったのか? 大板地区の旧物部村は戦後の町村合併で旧横山村と上生野村が合併してできており、江戸時代には大板の旧物部村は存在しないのです。唯一考えられるのは、日章地区の物部です。

かつて香美郡物部村として秦氏地検帳(安土桃山時代)載っているし、寛永地検帳(江戸時代初め)にも記載があるのです。しかも延暦24年(805年)香美郡郡司次官「物部鏡連家主(ものへのかがみのむらじ)」に赴任してきている(岩村の神奈地祇神社は物部氏の先祖の姫を祀っています)ので、豪族物部氏の屋敷か郡司役所がここに有ったのではないかと考えられます。どうやら、かつての香美郡の中心地、日章の物部村が物部川の語源になったようです。
(寄稿者・福船 和田真一)

がん認知症について

日赤の出前講座

久しぶりに公民館講座に医療問題を取りあげてみました。日赤岩村分区分より日赤の出前講座の話があり身近なテーマとして2つの講座をお願いしました。

第1講座では、がんについて知っておきたいこととして、高知県では多い順に男性は胃がん・肺がん・大腸がん・前立腺がん・肝臓がん。女性は乳がん・子宮がん・胃がん・大腸がん・肺がんだそうです。又、

公民館講座



がんになる確率は男性63%女性47%くらいで、一生のうち2人に1人は何らかのがんにかかるといわれていることです。この講座ではがんになった時の治療やその後の生活の仕方等について学びましたが、何といても早期発見と、検診を受けることの大切さを教わりました。

第2講座では、認知症という病気について色々な角度から説明していただきました。全国的に高齢化が進み、現在約5百万人近い認知症の高齢者がいて、10年後には全国で認知症の人は7百万人になると予想されています。

「あれ」「それ」が多くなり「物忘れ」が増え「同じことを繰り返す」等々の状態が進んで行くことと認知症の症状となっていくこととです。認知症になりたくてなる人はいませんが、予防には運動・生活習慣病の対策・社会参加で人と交わることが大切だと教わりました。

岩村公民館では色々な企画を立て、地域の皆さんの参加を呼び掛けていますので、ご自分の為にも大いに参加して元気な老後を楽しんで下さい。
(寄稿者・金地 島崎宏明館長)